

平成 30 年度町田市町内会・自治会連合会 市政懇談会が 11 月 20 日に開催された。

町田市からは石阪市長はじめ、各部署の部長及び担当部長が出席。事前の要望に対する市の回答の要旨は次のとおり。

1 特殊詐欺対策について

被害防止に有効な自動通話録音機の設置に関しては 2015 年度に東京都が市町村に無償で譲渡する事業を始め、町田市には 200 台の譲渡を受けた。その後東京都が半額補助をする事業に変更された。

市では安全安心町づくり推進計画にも自動通話録音機対応事業を続け 2017 年度に都の補助制度にて 30 台を購入。しかしながら犯罪の予防に関わる録音機は警察の責務として警察法に規定されており、国や都道府県の役割となっている。

市では多くの方に使ってもらえるよう、2015 年度の制度に戻すよう働きかけているところである。



2 境川を一級河川に指定する働きかけについて

東京都が 2012 年に策定した中小河川整備方針では時間雨量 65 mm 対応に引き上げられたが境川は 30 mm のままとなっている。

一級河川の指定は河川法により、国は昭和 40 年から 50 年にかけて 109 の水系を一級河川に指定したが、それ以降一級河川に指定した河川は 50 年近くない。二級河川を一級河川に指定するには非常にハードルが高い状況である。

市としては神奈川県庁に赴き整備要請を行ない、また神奈川県土木事務所等にも要請活動を行なった。

また東京都が行う調整池整備事業については東京都南多摩建設事務所へ早期完成を要請している。

3 町内会・自治会への加入促進対策について

町内会・自治会は任意の団体のため加入を義務付けることはできず個人の判断となる。

加入促進チラシを配布してきたが、新たな支援策として、連合会と東京都宅地建物取引業協会・全日本不動産協会と町田市における加入促進に関する協定書を締結し、不動産会社の店舗に来店した方に加入促進チラシを配布してもらうこととなり協力していただくとなった。

今後も市としては加入促進に向けて連合会とともに対応策について検討し実施していきたい。



4 公共施設再編計画について

公共施設再編成計画が策定され、新たな価値・サービスを生み出す豊かな場・柔らかな絆で繋がる接続可能なコミュニティを目指すこととなった。

複合化・多機能化については大規模改修や施設の建替えの際、一つの建物で複数のサービスが受けられるよう取組をしていく。小学校に学童保育クラブや高齢者福祉施設などの複合施設を設置等検討。

再編による施設の減少などは児童・人口の減少など社会状況の変化に対応をし、情報提供や対話を行いながらより良いかたちをめざしていきたい。

第二部は市政全般に関し市長から市政報告

- ・モノレールについては知事等に要望を提出中。
- ・オリンピック等 他国の町田市キャンプについて。
- ・薬師池公園は工事中で来年度完成。
- ・野津田グランドは観客席増設設計中。来年着工。
- ・芹が谷公園は工事中。トイレ改修も予定。
- ・南町田駅周辺、子どもセンター等来秋オープン。
- ・待機児童は来年の 4 月はほぼ 0 人になる予定。
- ・特養老人ホームは市内で早期入所が出来る予定。
- ・学校の耐震工事と普通教室の空調設備について。

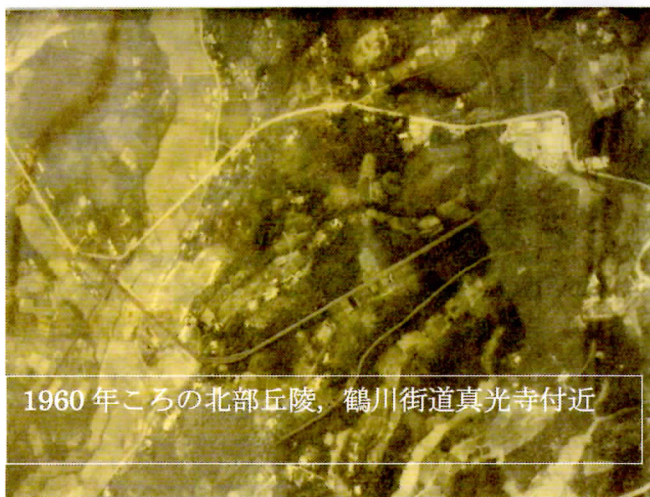
各要望に対して回答がなされ活発な質疑応答、また市長からの興味深い市政報告があり、有意義な懇談会となりました。

(編集委員:飯田 高信)

町田市市制施行60周年によせて

1958年（昭和33年）2月1日、町田市は誕生した。東京都南多摩郡の鶴川村、忠生村、堺村、南村、町田町の五ヶ町村が合併してできた。南村は1954年（昭和29年）町田町と合併していた。小学校は町田町が4校、堺村は2校、他は一村1校、合計9校であった。中学校は6校であった。町田第二中学校は開校2年目だった。当時は人口6万人強だった。現在の人口42万人強と比べると実にのんびりしたものである。私は鶴川小学校の六年生だった。

当時は戦後復興の真っ盛りで神武（神武天皇以来）景気か岩戸（天の岩戸、古事記の日本建国）景気とよばれて「もはや戦後ではない」といわれはじめて



1960年ころの北部丘陵、鶴川街道真光寺付近

いた。その言葉が実感として感じたのは東京オリンピック（1964年）以後である。街らしかったのは原町田に商店街がつながっていたぐらいである。森野は小田急の踏切を渡って少し忠生に向かうともう畑だった。芹ヶ谷公園は水田のつながる谷戸であり武蔵野そのものの丘陵地帯だった。国電（JRはまだ日本国有鉄道だった）の原町田駅（当時は町田駅ではなかった）には貨物線の列車編成用のスペースがあって蒸気機関車が貨車の編成を行っていた。小学生の時はその作業を飽きずに見ていたものである。横浜線もまだ単線だった。

当時は成瀬駅も古淵駅もなかった。町田駅の南口は天皇専用の駅だった。1935（昭和10年）年に陸軍士官学校が市ヶ谷から座間の相武台（このときにその名ができた）に移ってきて入学式、卒業式に天皇が臨席するために駅舎とホームが造られた。この駅舎は前の東京オリンピックの時にはまだ残っていた。駅舎は唐風の優雅な造りだった。現在は相模原市方向に向かうケヤキ並木がその面影を残している。この並木は南口の駅舎の開業に向けて植栽されたものである。私は文化財として駅舎だけでもど

こかの公園に残しておくべきだったと思っている。

鶴川街道は天皇のロールスロイスを町田まで運行するために造られた。また、原町田駅南口から士官学校までの道路を行幸道路としたのもうなずける。

このころ小田急線の百合ヶ丘駅が開業した。生田は東生田駅、読売ランドは西生田駅だった。新百合ヶ丘はまだなかった。空から見ると今は新宿から厚木まで街が続いているが当時は下北沢までが都心からつづく住宅街で世田谷代田駅は麦畑の中にあった。新宿まで出て初めて都会に出てきたと感じた。町田などはまだ田舎町だった。

薬師池は農業用水の溜池だった。農業用水の組合（所有者が用水組合を造っていた。確か農家7軒だったと思う）が町田市に寄付をした。市内には公園らしい公園はなかったが町田市全体が多摩丘陵の自然の中にあった。市域全体が公園だったといってもよいだろう。

1960年代に入って住宅団地ができて住宅公園（現UR）などディベロッパーが宅地開発をするときに都市計画法、都市公園法を適用して公園を造った。町田市は当初、薬師池公園から整備を始めた。市制60年たって公園が増えて逆に管理に費用が掛かりすぎて困っているようないい状況である。



現在の町田駅南口、植栽84年のケヤキ並木

（編集委員 仲村 清彦）